

「教育勅語」

〜〜今、見直される教育のあり方〜〜

教育勅語というだけで、毛嫌いしている現代人。

そういう私も戦後教育のおかげで、「とんでもないものだ!」とってみました。

これも、全ては戦後のアメリカの占領政策。そして共産党の思想戦略なんですね。

最大の敵であった日本人を骨抜きにする遠大な戦略にはまった現代日本人。

戦後60年経って、初めて見直される時が来ています。

同じく、明治維新も薩摩・長州の勝者からの歴史ではなく、敗者から見た歴史の真実があらためて見直しされています。

一方向だけでなく、多面的な角度から見ると「違った真実」が見えてきます。

又、「固定観念」を一度、はずし「素直」に検討してみると、違った真実が見えることになります。

今回は、「悪名高い教育勅語」を素直に見てみましょう。

1890年10月30日発布

教育勅語 現代訳

私達の祖先は、遠い昔に我が国をお開きになって以来、道義国家の理想現実を目指してこられました。そのために、国民は常に心を一つにして、忠孝一致の道にはげみ、わが国の進歩発展を見事に成し遂げて参りました。

もとより、これはわが国古来のすぐれた国柄の長所でありますが、私は教育の根本目的も道義国家の完成にあると信じます。

国民の皆さんは、子は親に孝養を尽くし、兄弟、姉妹はたがいに力を合わせて助け合い、夫婦は仲むつまじく助け合い、友人は信義を守って励まし合い、そして自分の言動をつつしみ、すべての人々に愛の手をさしのべ、学問を怠らず、職場に専念し、知識を養い、人格をみがき、さらに進んで、社会のために力をつくし、また法律や、秩序を守ることは勿論のこと、もし非常事態が起こった場合には、身命を捧げて、国の平和と、安全に奉仕しなければなりません。そしてこれらのことは、善良な国民としてのつとめであるばかりでなく、また、祖先が示し残された伝統的美風を、私達が更にいっそう明らかにして讃えることになるのであります。

だから、このような国の歩むべき道は、祖先の教訓として、私達子孫が守って行かなければならないことであり、昔も今も変わらぬ正しい道であって、日本ばかりでなく、外国においても、同じようにまちがいのない道でありますから、私も国民の皆さんとともに、父祖の教訓を胸に抱いて、日本が永久に立派な道義国家であるように希望します。」

<コメント>

どこが、問題になっているのか？

ごく当たり前なことを書いているだけでは？

「日本人としてのあり方」

歴史を大切にし、「武士道」精神そのものですね。

みなさん、もっと日本を見直しましょう！